

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 3 月 7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472500614		
法人名	社会福祉法人 しらゆり会		
事業所名	グループホーム長寿苑		
所在地	東広島市西条町馬木1660-2 (電話) 082-425-2000		
自己評価作成日	平成29年2月14日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3472500614-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年3月6日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・介護だけでなく医療面での充実を図っている。・住み慣れた場所で見慣れたスタッフに見守られながら、人生最後の時間を過ごして頂いている。・グループホーム独自の四季折々の行事に加え、同一敷地内にある特養と連携して、生花クラブ・折り紙教室・毎月の誕生会・夏祭りなどにも自由に参加して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

高屋インターチェンジに近く、広い敷地に特別養護老人ホームほか多くの福祉施設を配したコミュニティの一角にある当グループホームは開設15年を迎えた。長年培ったノウハウや豊かな経験を基に、一人ひとりが安心してその人らしく暮らし続けられるよう、地産地消の新鮮な食材を活かした食事提供や、傍に流れる黒瀬川のほとりには桜並木が続く環境の中、四季折々を楽しむ行事の工夫などにより、利用者の健やかな生活を地域ぐるみで育んでいる。この地で最期まで馴染みの関係性を保ちながら過ごせるように、法人全体で連携し、多彩な催しの企画を重ねつつ、職員・関係者のチームワークを積み重ね、更なる支援の質の向上を目指し、日々、取り組んでいる事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営（かめ）					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「ゆっくり・やさしく・確実に」をモットーに、日々の介護を実践している。	法人の基本理念と共に、利用者一人ひとりの尊厳を護り、「ゆっくり・やさしく・確実に」をスローガンとして、職員間で共有している。日々の流れの中や、ケースカンファレンスなどで振り返りながら、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	お花見や夏祭りなどの行事をとおして、地域との交流をはかっている。	長年培った地域との絆を深め、長寿苑夏祭りには、地域の人たちと一緒に石見神楽・花火などを、花見には近隣の幼稚園児と共に春を楽しむなど、苑内イベントが近隣住民との集いの場となっている。法人の催しである、近隣の小学生との交流会などへも参加し、世代を超えた関わりも深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	オレンジアドバイザーが居り、地域の人々の希望に応じて高齢者の集会に参加し、健康相談を受けている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一回、運営推進会議を開き、行政・事業所と地域の代表との意見交換を行っている。	隔月開催の当会議には、東広島市の担当者や地域包括支援センター職員、民生委員などが利用者・家族と共に参加し、活発に意見交換している。敷地内の特別養護老人ホームと合同で開催する時もあり、合同行事についての企画・発案など、新たな取り組みも視野に入れ、内容の充実を図っている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議で意見交換を行い、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議への参加をはじめ、日頃から市担当者と相談や手続き、研修案内などで、密な連携を取っている。職員がオレンジアドバイザーとして地域の小学生と交流するなど、積極的に協力し、関係構築を継続している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束禁止委員会を毎月開き、スタッフ同士で意見交換を行っている。身体拘束はもとより、スピーチロック（言葉による拘束）を行っていないか、スタッフ間で話し合っている。</p>	<p>定期的な研修はもとより、毎月の身体拘束禁止委員会でも個々のケースについて話し合い、月二回は全体で行うなど、職員間での啓発を促している。なるべく制約を加えない見守りによるケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法人内外の研修にスタッフは出来る限り参加している。言葉による虐待をしていないか、振り返るように心がけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人内外の研修に参加して、学ぶ機会を持っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項説明書等を用いて、管理者と担当事務職員が対応している。重要事項説明書は、見やすいように掲示している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を設置している。家族会を定期的に行い、要望があれば取り入れている。</p>	<p>主に、面会時や催し時に意見・要望を伺い集約、検討し、今後に向けたサービスに活かしている。年四回開催の家族会や、隔月開催の運営推進会議でも忌憚のない意見交換がなされ、利用者本位で楽しく過ごせる工夫や企画などのアドバイスを得ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	カンファレンス等で、意見交換している。	ケース会議などで話し合い、より良い支援に向けて意見交換している。利用者の思いに沿う支援や個々の出来ることが増えるようなケアにつながるよう意識統一も図りながら、職員の意見を反映させている。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	資格取得の為に勉強会を開催し、また、資格取得後は給与アップに反映されている。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	施設内外の研修に参加して、勉強している。又、毎月、施設内研修が設けられている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	法人外の様々な研修に参加しており、他施設の職員とも交流を持つ事ができ、意見交換する事もできる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	事前訪問を行い、そこで得られた情報をチーム全員で共有している。本人、家族への聴き取りもしっかり行い、本人が安心して生活出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入所前に、グループホームに見学に来て頂いている。スタッフとも実際に話をし、信頼関係をつくるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人、家族の思いを聴きながら、都度、対応している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>一緒にご飯を食べたり、何気ない季節の話などをしながら、共に過ごす時間を大切にするように、心がけている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時やメッセージカード（月1回）などで、本人の様子を報告している。ご家族から本人の生活歴、大切にしてきた事を少しずつ聞きながら、必要な協力を仰いでいる。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>面会に来られた方が、再度に来苑しやすいよう心掛けている。ショッピングで、外出支援も行っている。</p>	<p>法人として、大学や専門学校から実習生を受け入れ、レクリエーションを共に楽しんだり、歌謡ショーや歌声喫茶のボランティアなどの来訪・家族の面会も多く、懐かしい人や馴染みの関係性を大切にしている。ふたたび来苑したいと思えるような雰囲気づくりにも、配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の日常生活の様子を観察しながら、孤立や過干渉（おせっかい）にならない様に心掛けている。月1回は合同茶話会も実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	直接グループホームの職員がフォローを行わないが、居宅や事務所の職員が支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の生活の中で、本人の希望を（不満）を聞き、実現できる方法がないか考えるようにしている。	日頃のさりげない会話やふれあいの中で、個々の思いを汲み取っている。発語しにくい方には、ボディメッセージや家族からの聞き取りにより、意向などを把握し、アセスメントにつなげて、個別ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族への聞き取りを行い、本人が生活しやすい環境を整えられるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	スタッフ全員で日々の観察を行っている。変化があれば、日誌や伝達ノート・朝の申し送り等で情報を共有し、対策を立てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>アセスメントを行い、課題を抽出し、カンファレンスでスタッフが話し合うようにしている。家族にも介護計画の説明を行っている。</p>	<p>日々知り得た情報をもとに、本人・家族・医療関係者の意見を加味しながら協議し、介護計画を立案している。半年毎のモニタリングで見直し、ニーズに合わせたプランづくりに努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>利用者の体調・言動の変化は、日誌や朝の申し送りで、情報を共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>カンファレンスで、介護・医療部門の双方から意見を出し、検討を行い、より良いサービスを提供出来るよう努力している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>苑の行事には神楽や合唱・折り紙等、様々な地域のボランティアの方に参加していただいている。利用者の方も、楽しみにしておられる。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>主治医による週二回の回診がある。その他の医療機関でも、必要に応じて受診している。皮膚科・歯科の往診もある。</p>	<p>協力医療機関との連携や、各ユニット毎に日常的に関わる看護師を配置し、利用者の健康管理を図っている。看取りに関するバックアップ体制も整い、服薬管理・感染症対策にも留意し、日々、適切なサービスに努めている。通院が必要な利用者には、職員による同行支援も行なっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>朝の申し送りで、利用者の体調変化は必ず看護職に伝えている。指示は勿論、日常生活上のアドバイス等も受けて、実行するようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入・退院時はスタッフが付き添い、情報交換に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>家族・苑長・医師・看護師・介護スタッフが一体となり、家族の思いを受け止めながら、終末期への体制をとっている。</p>	<p>ターミナルケアに関しての指針があり、家族や関係者とその都度よく話し合い、出来る限り、一人ひとりの意向に沿った支援をしている。最期までその人らしく過ごせるように、個々の思いに寄り添い、ニーズに合わせた終末期ケアへ向けて、チームで取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>苑内外の研修に参加すると共に、マニュアルを作成し、適切な対応が出来るよう努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>避難訓練を定期的に行っている。消防署員から実際の訓練を見てもらい、指導を受けている。</p>	<p>職員全員で避難訓練を定期的に行い、消防署員からのアドバイスを受けつつ、様々な状況想定での防災意識を高めている。地域協定を結び、一時避難場所として提供し、地域との協力体制をはじめ、法人全体で防災システムを築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣いや接し方について、利用者の個々に対して気を付けるようにしている。	各々のライフスタイルやプライバシーを大切にしながら、人格を損ねない声掛けや節度のある接し方に留意している。その人らしく笑顔で過ごせるように、一人ひとりに寄り添う支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望を聞いたり、自分で選べるものは選んでもらえるように働きかけている。(おやつや飲み物の好み・服・着替え等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の生活のペースも大切に、又、他の利用者とのかねあいも大切にしながら、楽しい協同生活が送れるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝はパジャマから服に着替え、きちんとした身だしなみで、一日が過ごせるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に食事をしながら、楽しい時間を共に過ごせる様に心掛けている。お盆を拭いてもらう事もあるが、準備や片づけはスタッフがやっている。	昼、夜は法人内厨房で調理された食事提供、朝食のみスタッフによる手作りとなっている。お粥やゼリー食などの食事形態の工夫や地元の旬の食材を活かしつつ、利用者が食べやすいような支援をしている。桜餅などのおやつ作りで、和やかな時間を利用者と一緒に過ごし、食事を共に楽しめる工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>定時に水分摂取できるようにしている。個人の嚥下能力や味の好みに応じて、負担のない形で、水分摂取してもらえるようにしている。記録もしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>昼・夕食後歯磨き・義歯洗浄を行っている。口腔の状態に合わせて、ハミングットやモンダミンを使い、個別ケアを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>トイレで排便が出来るよう、排泄パターンを見ながら、支援に努めている。身体状況により、ポータブルトイレに座ることが難しい方も、排便後は速やかにパット交換を行うようにしている。</p>	<p>個々のパターンやタイミングを見計らって、トイレでの排泄を促している。リハビリパンツにパッド対応の利用者がほとんどだが、パッド交換にも留意し、清潔を保っている。トイレ誘導時など、個々のプライバシーにも配慮しながら支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分量のチェックや毎日の便観察を行い、食後は出来るだけトイレに座り、便意を促すようにしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一人ひとり、ゆっくりと入浴を楽しんでいただける様努力している。</p>	<p>曜日や時間にかかわらず、なるべく個々の要望に合わせて、リラックスできるよう支援している。季節を感じる柚子湯・菖蒲湯も楽しみ、職員とのコミュニケーションを図る時間にもなるように配慮している。重度化に伴い、一階のリフト浴も活用している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの体調に応じて、ゆっくりと休んでいただけるようにしている。状況に応じて、食事時間や起床時間をずらす等の配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの薬の処方目的や注意すべき副作用が、いつでもスタッフ全員が確認できるようにしている。薬剤師の訪問もあり、利用者の状況を相談・報告ができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	習字や夜はぬり絵等を楽しまれている。その他、アルコールは、特に医師・家族より要請等がない限り、月二回の晩酌の日に飲用できる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ショッピングや行事・レクリエーション等への参加の声掛けを行っている。天候の良い日は、散歩出来るように心掛けている。	普段から近隣への散歩や外気浴に努め、気分転換を心がけている。三景園やサービスイリアなどでの、食事を兼ねたドライブを楽しみ、各々の思いを個別ケアに組み込みながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物やドライブ等の折に、お小遣いを自分で使えるように援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>月一回の様子報告のための手紙は、自分で書ける方には書いていただいている。電話は、希望がある時には支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>レースのカーテンをしたり、季節の花を玄関に飾る等の工夫はしている。刺激への快・不快は個人差が大きいので、お互いが少しづつ譲り合うよう、声掛けをするようにしている。</p>	<p>日当たりの良いリビングには畳の間があり、落ち着いた家庭的な造りとなっていて、ソファで寛いだり、談笑のひとときが楽しめるように工夫している。折り紙作品や生け花などを飾り、季節感を取り入れたスペースづくりを心がけている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>窓際のソファや畳の空間があり、気に入った場所で過ごしていただけるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人の好みの物（毛布・クッション等）を置いてもらっている。安全で気持ち良い空間になるよう、それらを配慮している。</p>	<p>ベッド・タンスは備え付けで、個々の趣味趣向に合わせて、馴染みの家具や調度品などが持ち込まれている。個性を活かした設えで、居心地良く、落ち着いて過ごせるように配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>安全に気配りつつも、本人の思うような生活が送れるよう心掛けている。聞いた事は忘れても、書いてある事は理解できる方には、見えやすい所にメモを張るなど工夫している。</p>		

V アウトカム項目 (かめ)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム長寿苑

作成日 平成29年4月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	38	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している。	利用者が自分のペースでやりたい事を出来る様にする。	職員が利用者の方が今何をしたいかを充分理解し、希望に添える様に支援して行く。	6か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。